様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１３５２６

研究課題名（和文）足利義満期武家政治史の研究　―義満の権力確立過程の再検討を中心に―

研究課題名（英文）A Study of Political History of the Reign of Ashikaga Yoshimitsu: A Re-examination of Yoshimitsu's Power Consolidation Process

研究代表者
堀川　康史（Horikawa, Yasufumi）

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号：８０７６０２８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、室町幕府・将軍権力の確立期・絶頂期と評価されてきた足利義満期の再検討を目的とし、義満期の武家政治史、特に「遠国」情勢に着目して研究を行った。具体的には、未紹介史料を含む同時代史料の調査・活用を通じて、九州・関東における政治・軍事情勢を復元することにより、足利義満期は、南北朝内乱とは異なるかたちで室町幕府と「遠国」間の亀裂が生じた時期であること、義満期における「遠国」の不安定な状況は、従来注目されてきた足利義持・義教期に連続することを明らかにした。以上の検討により、前述した足利義満期に関する従来の評価を相対化することができたものと考えている。

研究成果の学術的意義や社会的意義
室町幕府・将軍権力の絶頂期・確立期という従来の足利義満期像を、従来等閑視されてきた武家政治史の視角から再検討した本研究課題は、義満期をひとつの重要な参照軸としてきた従来の室町幕府研究を再考するきっかけになると思われる。また、「遠国」という〈地方〉の視点を意識的に取り入れたことは、ともすれば京都を舞台とした歴史叙述に傾きがちな近年の研究潮流を相対化するうえでも、一定の意義が認められるだろう。いくつかの重要な未刊行史料を紹介したことも本研究の意義の一つである。

研究成果の概要（英文）：This research project challenged the conventional depiction of the reign of Ashikaga Yoshimitsu as marking the heyday of both the Muromachi shogunate and of the shogun’s authority by examining the political relationship between the shogunate and its peripheral areas, or the “distant provinces.” This research reconstructed political and military situations in Kyushu and Kanto by collecting and analyzing contemporary sources, including those yet to be studied or transcribed. This research revealed that the reign of Ashikaga Yoshimitsu should be regarded as a period when new tensions surfaced between the Muromachi shogunate and the “distant provinces,” and that this fraught relationship between the center and periphery persisted well into the reign of Ashikaga Yoshimochi and Yoshinori, which have previously attracted greater scholarly attention. These findings enable us to re-examine the master narrative underlying the political history of the Muromachi shogunate.

研究分野：日本中世史

キーワード：足利義満　室町幕府　遠国　鎌倉府　九州探題

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

室町幕府の歴代首長のなかで、3 代将軍足利義満（1358～1408）は幕府の最盛期をもたらしたとされる人物で、その権力確立過程は早くから議論の焦点となってきた。長らく通説的位置を占めてきたのは、佐藤進一が『南北朝の動乱』（1965 年）において示した議論である。これは義満が（A）有力大名の弾圧、（B）朝廷権限の奪取と義満の上皇化、（C）明との外交による「日本国王」号の獲得を通じて絶対的権力を確立したとする理解であるが、この佐藤説については 1990 年代以降再検討が進み、現在までに（B ’）公武関係は協調を基調としており、義満は朝廷・天皇家と一体的な関係にあったこと、（C ’）「日本国王」号は対明通交上の名義にすぎず、国内の「王権」の所在とは無関係であることなどが指摘されている。

このように、義満の権力確立過程をめぐる研究は佐藤説の批判的検討を通じて新たな段階に入っているが、これら佐藤説の再検討は、今谷明の「王権簒奪論」、富田正弘の「公武統一政権論」の提起をきっかけに本格化したという研究史的経緯もあって、論点が公武関係や「王権」に関わるものに限定されている。義満が突出した権力を築いたという点においては佐藤説との隔たりは小さく、結果として、この間なされた幾多の修正にもかかわらず、将軍権力の確立期・絶頂期という義満期政治史像は依然として通説の位置を占めている。

## ２．研究の目的

本研究課題は、前述の課題認識のもと、公武関係史・「王権簒奪論」批判中心の義満論では検討が不十分であった、佐藤説の論点（A）足利義満と諸大名の関係（本研究課題では便宜的に「武家政治史」と呼んでいる）の再検討を通じて、義満期の政治史を描き直すことを目的とする。すでに研究代表者は、「今川了俊の探題解任と九州情勢」と題する論考（『史学雑誌』125 編 12 号、2016 年）において、従来（A）有力大名弾圧の代表例とされてきた九州探題今川了俊の解任の背景について検証を行い、室町幕府権力が頂点に達したとされる義満期にこそ室町幕府と「遠国」の亀裂が表面化するという認識を示し、将軍権力の確立期・絶頂期という義満期像に疑問を呈したことがある。本研究課題ではこの研究成果を出発点とし、〈地方〉とりわけ「遠国」の視点から武家政治史の再検討を目指す。

## ３．研究の方法

本研究課題では具体的な分析の対象として、足利義満期における室町幕府と「遠国」（九州・関東・東北）の関係、とりわけ応永の乱前後の政治・軍事情勢に着目する。応永の乱とは、応永 6 年（1399）、中国地方の有力大名大内義弘が鎌倉公方足利満兼と連携して挙兵したもので、義満期武家政治史を語るうえでは必ず取り上げられる戦乱である。応永の乱については、明との通交により権力確立を図った義満が、対外通交上の地位を上昇させつつあった義弘を排除するために仕組んだ謀略とし、義満の権力確立過程の最終段階に位置づける佐藤進一の説が通用している。本研究課題では、当該期の九州情勢・東国情勢の分析を通じて佐藤説の検証を行い、室町幕府と「遠国」の関係から、義満期武家政治史の評価を再検討する。

義満期、特にその権力確立期とされる 1380～90 年代の武家政治史について明らかにしようとするとき障壁となるのは、同時代史料の乏しさである。すなわち、中央においてはまとまった公家日記が残っておらず、また地方においては残存史料そのものが相対的に少なくなる一方、年未詳史料の占める割合が増えている。このような史料的制約を克服すべく、本研究課題では、未刊行史料の調査・翻刻を実施するとともに、既刊の史料集の網羅的調査等を通じて、武家政治史研究のための史料的基盤の構築にも取り組んでいく。

## ４．研究成果

①史料調査

同時代史料の乏しさという現状を踏まえてまず取り組んだのは、『兼敦朝臣記（吉田家日次記）』の翻刻である。京都吉田社の神官で、足利義満の近臣でもある吉田兼敦（1368～1408）の日記である本記録は、当該期の政治情勢に関する重要な記述を多数含むことで知られるものの、まとまった史料紹介がないため、その活用は一部にとどまっていた。本研究課題では天理大学附属天理図書館所蔵史料を中心に、『兼敦朝臣記』および逸文の翻刻・調査を進めるとともに、他の未刊行古記録の所在調査・発掘を行った。また、古記録の調査と並行し、足利義満期の「遠国」情勢に関わる武家文書・寺社文書の収集・整理を行った。本研究課題により調査・翻刻した史料については、研究成果公表時に随時紹介している。『吉田家日次記』については、"The Diary of a Shinto Priest in Medieval Japan," David Durand-Guédy and Jürgen Paul (eds.), Personal Manuscripts: Copying, Drafting, Taking Notes (De Gruyter, 2023)にて、中世の「日記」の

一例として、日本史の非専門家に向けて概要を紹介した。

②足利義満期の室町幕府と「遠国」

九州情勢に関しては、2019 年に「今川了俊の京都召還」(『古文書研究』87 号）を発表し、今川了俊の「京都召還」の実態が九州からの「敗走」であるとする新たな捉え方を提起した。2020 年には「渋川満頼期の九州情勢と応永の乱」と題する研究報告を行い、了俊解任後から義満没後までの九州情勢を分析した。東国情勢については、『吉田家日次記』をはじめとする、従来利用されてこなかった史資料を活用することにより、応永の乱前後の政治・軍事情勢を中心に、足利義満期における室町幕府・鎌倉府の関係を具体的に検討した。以上の考察を通じて、義満期は室町幕府と「遠国」間に新たな亀裂が生じた時期であること、義満期における「遠国」の不安定な状況は、従来注目されてきた足利義持・義教期に連続することを明らかにし、足利義満期に関する従来の評価（前述）を相対化した。本研究課題の総括については、2023 年 5 月に歴史学研究会大会・中世史部会において行った研究報告「室町幕府支配体制の形成と展開」のなかでその一部を披露した（『歴史学研究』掲載予定）ほか、各論についても論文化を進めている。

③その他

本研究と関わる成果として、東京大学史料編纂所所蔵の新収史料から、2 代将軍足利義詮期の「延文 5 年（1360）の政変」に関わる史料を紹介・分析した「延文五年桂宮院伝法灌頂私記・同紙背文書」(『東京大学史料編纂所研究紀要』32 号、2022 年、三輪眞嗣氏との共著)、室町幕府支配体制研究の軌跡と課題を初学者向けに整理した「室町幕府と全国秩序：中世後期の中央と地方の関係をどのように考えるか」（上島享ほか編『論点・日本史学』ミネルヴァ書房、2022 年）ほかがある。また、本研究課題と直接の関連はないが、史料調査を進めるなかで見出した史料をもとに、鎌倉初期の出雲守護に関する論文「鎌倉初期の出雲守護安達親長に関する一史料　―河内金剛寺所蔵『梵網経古迹記巻下』紙背文書から―」(『松江市史研究』10 号、2019 年）を発表した。

また、本研究と関わる口頭報告（外国語）として、"The Muromachi Bakufu and 'the Distant Provinces': Center and Peripheries in Late Medieval Japan" (2019)、"The Diary of a Shintō priest in Medieval Japan″ (2020)、"The Nanbokucho War and Loyalty in an Age of War: The Struggle and Failure of Kyushu Deputy Imagawa Ryoshun, 1370-95" (2022)ほかがあり、後 2 者については出版済・出版予定である。

なお、2019 年 9 月から翌年 8 月までの 1 年間は、在外研究の機会を与えられたことから本研究を中断した。また、新型コロナ・ウイルスの感染拡大にともない、研究期間を 1 年間延長した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Yasufumi Horikawa | ４．巻<br>30 |
| ２．論文標題<br>The Diary of a Shinto Priest in Medieval Japan | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>Studies in Manuscript Cultures | ６．最初と最後の頁<br>263～286 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.1515/9783111037196-008 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Yasufumi Horikawa | ４．巻<br>- |
| ２．論文標題<br>Oaths and Divine Punishments in Warring States Japan from the Princeton University Collection | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>Medieval Worlds | ６．最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>堀川康史，三輪眞嗣 | ４．巻<br>32 |
| ２．論文標題<br>延文五年桂宮院伝法灌頂私記・同紙背文書 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>東京大学史料編纂所研究紀要 | ６．最初と最後の頁<br>106-121 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>堀川康史 | ４．巻<br>87 |
| ２．論文標題<br>今川了俊の京都召還 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>古文書研究 | ６．最初と最後の頁<br>印刷中 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>堀川康史 | ４．巻<br>10 |
| ２．論文標題<br>鎌倉初期の出雲守護安達親長に関する一史料　―河内金剛寺所蔵『梵網経古迹記巻下』紙背文書から― | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>松江市史研究 | ６．最初と最後の頁<br>1-2 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　7件／うち国際学会　6件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yasufumi Horikawa |
| ２．発表標題<br>The Nanbokucho War and Loyalty in an Age of War: The Struggle and Failure of Kyushu Deputy Imagawa Ryoshun, 1370-95 |
| ３．学会等名<br>Strong Asymmetries in Social Relations Compared: The Mamluk Sultanate, Medieval Japan and Beyond（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>室町幕府支配体制の形成と展開 |
| ３．学会等名<br>2023年度歴史学研究会大会中世史部会準備報告会（第1～4回）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>室町幕府支配体制の形成と展開 |
| ３．学会等名<br>2023年度歴史学研究会大会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Horikawa Yasufumi |
| ２．発表標題<br>Oaths and Divine Punishments in the Warring States Japan: From Princeton University Collection |
| ３．学会等名<br>Oath Workshop (Vienna University)（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>コメント |
| ３．学会等名<br>海外の日本中世史研究 ：「日本史」・自国史・外国史の交差（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>本所所蔵『桂宮院伝法灌頂記』紙背文書について |
| ３．学会等名<br>東京大学史料編纂所一般共同研究「修理の知見を踏まえた中世真言密教聖教・紙背文書の史料学的分析」中間報告会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yasufumi Horikawa |
| ２．発表標題<br>The Muromachi Bakufu and Distant Provinces: Center and Peripheries in Late Medieval Japan |
| ３．学会等名<br>Workshop: New Trends in the Study of Medieval Japanese Documents, Princeton University, The United States（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yasufumi Horikawa |
| ２．発表標題<br>The Diary of a Shinto; Priest in Medieval Japan |
| ３．学会等名<br>Workshop: By one's own hand -- for one's own use, The Centre for the Study of Manuscript Cultures, Hamburg University, Germany（招待講演）（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Yasufumi Horikawa |
| ２．発表標題<br>The Muromachi Shogunate and Its Distant Provinces: Late Medieval Centers and Peripheries |
| ３．学会等名<br>Association of Asian Studies Annual Conference, Boston, The United States (Canceled due to COVID-19)（国際学会） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>南北朝期の守護に関する諸論点 |
| ３．学会等名<br>基盤研究(B)「中世後期の守護権力の構造に関する比較史料学的研究」第2回研究会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>堀川康史 |
| ２．発表標題<br>渋川満頼探題期の九州情勢と応永の乱　―足利義満期武家政治史再検討の一環として― |
| ３．学会等名<br>大阪歴史学会中世史部会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計4件

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>岩城　卓二、上島　享、河西　秀哉、塩出　浩之、谷川　穣、告井　幸男 | 4．発行年<br>2022年 |
| 2．出版社<br>ミネルヴァ書房 | 5．総ページ数<br>388 |
| 3．書名<br>論点・日本史学 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>神奈川県立金沢文庫編 | 4．発行年<br>2022年 |
| 2．出版社<br>神奈川県立金沢文庫 | 5．総ページ数<br>116 |
| 3．書名<br>法会への招待 ：「称名寺聖教・金沢文庫文書」から読み解く中世寺院の法会 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>黄霄龍・堀川康史共編 | 4．発行年<br>2023年 |
| 2．出版社<br>勉誠出版 | 5．総ページ数<br>- |
| 3．書名<br>海外の日本中世史研究：「日本史」・自国史・外国史の交差 | |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>京都府京都文化博物館編 | 4．発行年<br>2021年 |
| 2．出版社<br>京都府京都文化博物館 | 5．総ページ数<br>240 |
| 3．書名<br>よみがえる承久の乱 ： 後鳥羽上皇 vs 鎌倉北条氏 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|